

#### 参考・引用文献

- 秋本美加・斉藤功・山崎貴代. (2018). 産後 1 か月までの母親の疲労感に影響する要因の検討. 日本公衆衛生雑誌, 65(12), 769-776. 10.11236/jph.65.12\_769
- 市川香織. (2015). 産後ケアの文化的背景と現代の課題についての一考察. 文京学院大学保健医療技術学部紀要, 8, 23-30.
- 畠山典子・原田静香・中山久子・櫻井しのぶ. (2019). 自治体の産後ケア事業（デイケア型）を利用した母親の利用前後の気持ちの変化：効果的な産後ケア事業の展開へ向けた事業評価の視点より. 日本地域看護学会誌, 22(1), 13-25. 10.20746/jachn.22.1\_13
- 稲田千晴・國分真佐代・島田真理恵. (2020a). 助産所助産師の産後ケアを受けた母親の体験. 母性衛生, 61(2), 389-396.
- 稲田千晴・島田真理恵・相良有紀・山本詩子・岡本登美子・葛西圭子・岡本喜代子. (2018). 産後ケアならびに産後ケア事業の実態調査. 母性衛生, 58(4), 693-701.
- International Confederation of Midwives. 世界基準 助産実践に必須のコンピテンシー2019年改訂. [https://www.midwife.or.jp/user/media/midwife/page/kokusai-katsudo/required-competencies-jp\\_20709.pdf](https://www.midwife.or.jp/user/media/midwife/page/kokusai-katsudo/required-competencies-jp_20709.pdf) (検索:2023 年 1 月 4 日)
- 飯田万梨英. (2022). 産後ケア事業における評価質問紙の内容妥当性の検討 聖路加国際大学課題研究.
- 石井邦子・川城由紀子・北川良子・大滝千智・小路和子・吉村園子・浅野輝子・臼井佐紀・窪谷潔. (2020). デイケア型産後ケアサービスが母親の心理的健康状態にもたらす効果. 母性衛生, 60(4), 587-595.
- 神谷摂子.(2020).子育て中の母親が感じる出産施設他院後から出産後 1 年までの困難と求める支援. 愛知県立大学看護学部紀要, 26, 123-135.
- 北田ひろ代. (2015). 産後ケアの概念分析. 日本母子看護学会誌, 8(2), 1-8.
- 小塩真二. (2018). SPSS と Amos による心理・調査データ解析：因子分析・共分散構造分析まで / 小塩真司著 (第 3 版 ed.). 東京図書.
- 小松崎愛美・齋藤泰子・小山千秋・青山廣子・萩原玲子・丹波恵津子・谷口真理・富田素子・宮里和子. (2014). 産後ケア事業の評価 利用時期別のケアニーズ. 武蔵野大学看護学部紀要, (8), 63-68.
- 小西清美.(2018). B市における産後ケアニーズの検討—乳児を持つ母親を対象にした調査から—. 名桜大学総合研究, 27. 149-155.

- 厚生労働省.(2019a). 結果の概要.<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/dl/02.pdf> (検索日:2022 年 6 月 6 日)
- 厚生労働省.(2019b). 妊産婦にかかる保健・医療の現状と関連施策 <https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000479245.pdf> (検索日:2022 年 6 月 6 日)
- 厚生労働省.(2020a).産前・産後サポート事業ガイドライン 産後ケア事業ガイドライン.<https://www.mhlw.go.jp/content/000658063.pdf> (検索日:2022 年 6 月 6 日)
- 厚生労働省.(2022). 母子保健対策関係 令和 4 年度予算案(令和 3 年度補正予算)の概要 <http://www.mhlw.go.jp/content/000825738.pdf>(検索日:2022 年 6 月 6 日)
- 久保田隆子・黒岩あゆみ. (2021). 産後 1 か月の初産婦が育児より感じる助産師へのケアニーズ. 日本母子看護学会誌, 14(1), 25-36.
- Macdonald, C., Sharma, S., Kallioinen, M., & Jewell, D. (2021). Postnatal care: new NICE guideline for the ‘Cinderella service’. *British Journal of General Practice*, 71(710), 394-395. 10.3399/bjgp21X716825
- McCauley, H., Lowe, K., Furtado, N., Mangiaterra, V., & van den Broek, N. (2022). Essential components of postnatal care - a systematic literature review and development of signal functions to guide monitoring and evaluation. *BMC Pregnancy and Childbirth*, 22(1), 448. 10.1186/s12884-022-04752-6
- 松尾太加志・中村知靖. (2002). 誰も教えてくれなかった因子分析：数式が絶対に出てこない因子分析入門 / 松尾太加志, 中村知靖著. 北大路書房.
- 松永佳子. (2010). 助産師により提供される産褥期のケアに関する文献検討. 日本母子看護学会誌, 4(2), 23-30.
- みずほ総研株式会社.(2018). 産後ケア事業の現状及び今後の課題並びにこれらを踏まえた将来の在り方に関する調査研究 報告書 ～産後ケア事業のあり方に向けた産後ケア事業の実態と課題に関する基礎調査～. [h29kosodate2017\\_04.pdf](https://www.mizuho-rt.co.jp/h29kosodate2017_04.pdf) (mizuho-rt.co.jp)(検索日:2022 年 6 月 6 日)
- 永田雅子. (2008). 親と子の愛着形成. 周産期医学, 38(5), 587-590.
- 永見倫子. (2019). 産後女性の身体症状—育児中の女性に対するアンケート調査より. 日本保健科学学会誌, 22(1), 16-21. 10.24531/jhsaiih.22.1\_16
- 中山和弘. (2018). 看護学のための多変量解析入門 / 中山和弘著. 医学書院.
- Nice Institute for Health and Care Excellence. Postnatal care NICE guideline [NG194]. <https://www.nice.org.uk/guidance/ng194>

//www.nice.org.uk/guidance/ng194 (検索日:2023 年 1 月 4 日)

- 野原真理・中田久恵. (2019). 母親の QOL と育児不安 - 産後 1 か月, 6 か月, 12 か月の縦断的研究から. 小児保健研究, 78(4), 305-314.
- 大村典子・光岡攝子. (2006). 妊娠期から生後 1 年までの児に対する母親の愛着とその経時的变化に影響する要因. 小児保健研究, 65(6), 733-739.
- 岡津愛子・江坂まや・大久保有紀子・佐々木美幸・山田静江・片岡弥恵子. (2021). 東京都における宿泊型産後ケア施設の利用実態と利用者が産後に感じた困難. 日本助産学会誌, 35(2), 133-144. 10.3418/jjam.JJAM-2020-0019
- 島田三恵子・杉本充弘・縣俊彦・新田紀枝. (2006). 産後 1 か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズおよび育児環境に関する全国調査 - 「健やか親子 21」 5 年後の初経産別, 職業の有無による比較検討. 小児保健研究, 65(6), 752-762.
- 澤田明菜・鏡(関塚)真美・太田良子・毎田佳子. (2020). 産後 1 か月から 4 か月までの母親がもつ育児ストレスと対処行動. 日本看護科学会誌, 40(1), 270-278. 10.5630/jans.40.270
- 田中美帆・齋藤いずみ. (2019). 産後ケア事業の利用を妨げる要因について ~母親たちがより利用しやすい事業にするための課題. 母性衛生, 60(1), 83-90.
- 東京都福祉保健局総務部総務課(統計調査担当).(2022). 令和 3 年 東京都人工動態統計年報(確定数)のあらまし[ウェブサイト]. [https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/pres/s/2022/12/06/documents/03\\_01.pdf](https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/pres/s/2022/12/06/documents/03_01.pdf) (tokyo.lg.jp)(検索日: 2022 年 12 月 13 日)
- 篠原枝里子. (2017). 周産期ボンディングの概念と評価方法. 助産雑誌, 71(12), 908-913.10.11477/mf.1665200899
- 鈴木麻衣加・宮島紗規子・北村千章. (2019). 出産施設で受ける産後ケアの効果と要望. 母性衛生, 60(2), 429-436.
- 山崎圭子・高木廣文, (2015). 産褥早期における「産後の疲労感」尺度の開発と信頼性・妥当性の検討. 母性衛生, 55(4), 711-720.
- 山崎圭子・齋藤益子.(2014). 「産後の疲労感」の概念分析. 日本母子看護学会誌, 7(2), 1-10.
- 山重慎二. (2000). 公平性の観点からの政策評価. 会計検査研究, (22), 33-46.
- 柳井晴夫・井部俊子. (2012). 看護を測る : 因子分析による質問紙調査の実際 / 柳井晴夫, 井部俊子編. 朝倉書店.
- 柳瀬千恵子・山田安希子・高橋由紀. (2021). 分娩を取り扱う助産所助産師がとらえる産後ケアと助産所の存在役割. 日本助産学会誌, 35(1), 88-98. 10.3418/jjam.JJAM-2020-0028